
目次

.....

【1】 --- 教員コラム 15 弾 第 6 回「ゆとりの時間」物理学教室 / 川野輝彦

.....

【2】 --- 令和 3 年度上半期受入れ図書

.....

【3】 --- 返却期限のリマインダメールを開始します

.....

【4】 --- 令和 3 年度第 2 回企画展示<映像がたり>展

.....

【5】 --- 地下のコピー機を廃止します

.....

[Book Review] ・ ・ ・ 編集後記にかえて

【1】 --- 教員コラム 15 弾 第 6 回「ゆとりの時間」物理学教室 / 川野輝彦

.....

図書館や読書にまつわる自分のよもやま話のひとつをつれづれなるままに書いてみようと思う。大学に入学するまではテレビっ子だったし、本を読む速さが当時はとても遅いので本を読む気がなかなかおきなかった。夏休みの宿題の読書感想文のせいで夏休みの間じゅうずっと憂鬱な気分であった。小学校などの図書館で本を借りて読むということも、字が大きくてページ数も少ない子供向けの SF 小説を借りることが数えるぐらいあるぐらいで、とても稀なことだった。したがって、地元の市立図書館に行くことなど皆無であったし、その場所がどこにあるのかも知らなかった。

中学 1 年生のとき、当時の文部省の方針で、ゆとりの時間というような授業が週に 1 時間導入されることになり、これまであった英語の時間が 1 時間減ることになった。これは、後に導入されるゆとり教育よりもずっと前のことである。記憶が正しければ、このゆとりの時間は、先生が、校庭で球技する班、図工をする班などのいくつかの班を決め、生徒が希望する班に分かれて、具体的に何をするかを生徒が話し合って決めてゆくような試みであった。担任の先生が理科の先生だったこともあり、この班の中に、化学実験をする班があった。当時から研究者になりたいと思っていたので、この化学実験の班を希望したのであるが、自分以外には、もうひとりの生徒しか希望者がいない。このゆとりの時間の最初の授業で、化

学実験班は、それぞれ自分が希望する実験の計画書を書くように指示された。しかしながら、小学校を卒業したばかりの自分には、化学とはテレビで見るとような試験管やフラスコに入った色のついた薬品を混ぜるイメージしかなかったので、何をしたら良いのか皆目見当もつかない。だが、野心はある。そこで、いろいろな薬品を混ぜて、これまでに見つかったことのない気体を発見する計画を立てた。研究課題名は「新しい気体に期待しよう」である。なんとも苦し紛れな研究計画なのだが、担任の先生は、意外にも、とても褒めてくれた。

一方、化学実験班のもうひとりの同級生は、まわりの友達たちに自分の計画した実験について自慢そうに話している。彼のまわりの友達たちも感心したように話を聞いている。しかし、こちらは彼がどんな実験をするのか直接教えてもらうのは癪である。彼がまわりの友達たちに話しているのを耳を澄ませて漏れてくるのを聞いていると、どうやら水に電気を流すと酸素と水素が発生するらしい。そんな話は生まれてこの方聞いたことがない。しかも、水と酸素や水素がどうして関係しているのかもわからない。全くの未知の世界である。しかも、とても面白そうである。どういう話なのかをもっと知りたいのであるが、その同級生にお願いして説明してもらうのは面白くない。でも、彼も自分で発見したことではなく、多分誰かに教えてもらったのだろうと見当をつけた。それならば、化学実験の本を読めば、その実験について書いてあるに違いない。しかしながら、本にもともと興味のない自分の手元にそのような本はない。それならば、中学校の図書室に行けば良さそうであるが、そのような本を読んでいるところを彼に見つかるのはバツが悪い。

そこで、市立図書館に行けば良いのではないかという考えが頭を横切った。しかしながら、市立図書館がどこにあるかわからない。仲の良い友だちに市立図書館について聞くと、彼は行ったことがあるという。自分はこれまで行ったことがないので、行ってみたいと言うと、今度の土曜日に一緒に自転車で行こうという。願ったり叶ったりである。そこで、土曜日に自転車で彼について行くと、ゆうに 6 キロ以上ある場所に図書館があった。友達とふたりでちょっとした冒険である。しかも、そこはバスや父の車で近くを通ったことは何度となくあったのだが、まさかそんな所にあるとは思ってもよらなかった。図書館に入ると、彼は親と時々来ているようで、お目当ての本を探しに吹き抜けになった中二階へと上がっていった。しめた。こちらの本当の目的を彼に知られずに済む。そこで、こちらはこちらでお目当ての本がどこにあるのかわからないので、いろいろ見て回っていると、理科っぽい本が並んでいる場所を見つけた。そこには、中学で行う理科の実験が書いてある図鑑っぽい本や手引書みたいな本が何冊もあった。そして、ようやくお目当ての実験が書いてある箇所を見つけた。どうやら、この実験は「電気分解」というらしいこともこのとき知った。これで、電気分解なる実験をどのように行えばよいのか知ることができた。ひと安心である。しかし、疑問が残った。水に電気を流すことと酸素や水素が発生することとがどう関係しているのかわからない。とても神秘的な現象である。

そこで、理解の助けになりそうな手がかりはないかとそのあたりの本をいろいろ探してみると、自分にも理解できそうな本を見つけた。「化学ドレミファ」(著・米山正信) という

本である。この本を読めば電気分解について理解できるかどうかはそのときはわからなかったが、そのとき「イオン」なる見たこともない単語が理科実験の本にもこの本にも載っていることだけは確認できた。(ポカリスエットなどのイオン飲料は当時まだ世に出ていなかったように思う。)そこで、この本を借りることにして、その日は家に帰った。

家に帰って、この本を読んでみると、原子の間で電子をやり取りすることやその結果イオンが生じることなどがわかりやすく書かれていて、全く新しい世界を見ている気分だった。その日から、自分でノートを取りながら、この本を読むことにした。その当時、研究とは何をするのか漠然としたイメージしかなかったが、この本を読みながらノートをとって考えていることが自分の中では研究している気分が楽しかった。返却期限までにこの本を読み終え、同じ友達ともうひとりの友達も加わって、三人で自転車で図書館に行き、本を無事返却できた。自分の人生の中で、知りたいことができて、誰に強制されるわけでもなく自主的に、いろいろな文献を調べて、その文献を真剣に読んで理解するというのは、これが初めてのことだったと思う。そして、それがとても楽しいことだということも大切な発見だった。

自分の記憶が正しければ、ゆとりの時間という授業は最初の一回目以降、受けることはなかった。多分、英語の時間がやはり足りないことが判明したに違いない。したがって、自分たちが計画した化学の実験をすることは一度もなかった。だから、単なるから騒ぎで終わってしまった話ではあるが、自分はとても大事な経験をした。結局、今も同じようなことをしつづいぶん楽しんでいる。自分の研究分野では、もちろんのことだが、自分とは縁遠い分野の話も興味をもった話題は、インターネットも今や欠かせない道具ではあるが、それ以外にも色々検索して良さそうな啓蒙書や新書、あるいは、大学の教科書などを探して、市立図書館や大学の図書館などで借りて読んで楽しんでいるし、自分の人生にとって役立っていると思う。買いかぶりすぎだと思うが、これが「ゆとりの時間」の主眼だったのではないかと訝しく思っている。

※過去の教員コラムは、[こちら](#)です。

【2】 --- 令和3年度上半期受入れ図書

.....

シラバスを基準に購入した図書など、令和3年度上半期に入った新しい本を[図書館ホームページ](#)でお知らせしています。※学内専用のため、パスワードが必要です。

- ◆下鴨館◆図書 19冊『[基本としくみがよくわかる東洋医学の教科書](#)』など
- ◆本館◆図書 42冊『[エッセンシャル遺伝学・ゲノム科学](#)』

『[目の見えない人は世界をどう見ているのか](#)』など。

◆寄贈図書◆図書 69 冊『[フラジャイル: 病理医岸京一郎の所見 20](#)』など

図書館の所蔵資料や貸出状況は、[Mecke](#) で検索、確認できます。新しい資料、ぜひ御利用ください。

【3】 --- 返却期限のリマインダメールを開始します

.....

2021/11/1(月)より、貸出中の資料が返却期限の 3 日前に迫ると、返却期日がメールで通知されます。リマインダとしてご活用ください。(新着雑誌は当日通知)

10/29 現在、学内者への資料の貸出期間、貸出冊数は、以下のとおり。

単行書・AV 資料	4 週間/10 冊以内
雑誌バックナンバー	1 週間/10 冊以内
雑誌新着	2 日間/10 冊以内

リマインダが不要な場合は、お手数ですがメーラーの件名フィルタ機能でご対応ください。(例 [Gmail の設定](#))

【4】 --- 令和 3 年度第 2 回企画展示＜映像がたり＞展開催中

.....

■期間：2021/10/25(月)～11/13(土)

■場所：附属図書館 1 階 特設展示コーナー

■展示一覧：<https://booklog.jp/users/kpumlib/f>

■ポスター：<https://www.kpu-m.ac.jp/k/library/news/2021/files/28592.pdf>

「泣くな研修医」「神様のカルテ」など、今年も医療現場を舞台にしたドラマが放映されています。図書館では、映像化された原作本を絶賛展示中。「ペコロスの母に会いに行く」など映画になったもの、「はたらく細胞」などアニメ化されたもの、何度もリメイクされた「白い巨塔」など、見覚え聞き覚えのある原作本を選びました。動画配信中の「Dr.House」

も洋書をご用意。すべて貸出可です。是非ご覧ください！

【5】 --- 地下のコピー機を廃止します

.....

文献複写のため、設置しているコピー機について、契約の更新にあわせて台数等の見直しを図り、11/1(月)から1階のみに設置します。地下書庫の資料は、お手数ですが1階コピー機で複写をお願いします。複写後の資料はコピー機横のブックトラックに返却してください。

コピー機ご利用の際は著作権法第31条(図書館等における複製)に基き、複写申込書をカウンターへ提出してください。

[Book Review]

.....

羽田回著「新型インフルエンザパンデミックの黙示録：一人の医師の論理的考察」
(せせらぎ出版 2012年)

朝の書架整理でこの本を見つけた時、(2012年に新型ウイルスのパンデミックを予見した医師がいたのか?!)と、一人で色めき立った。著者から寄贈されて、図書館に受入れた単行書のようなものである。内容は「預言書」というよりは、2009年に発現した、8本の遺伝子を持つ新型インフルエンザウイルスのパンデミック(騒ぎ)を検証したものであった。一時はWHOがフェーズ6を宣言し、政府やマスコミが危機感を煽るも、極めて軽症であり、終息した。筆者はこの「感染列島狂騒曲」を「外れも外れ、大外れ」と批判的にコメントしている。

8年後、世界的な新型コロナパンデミックを経験した者としては、当時の記事や関係者の意見を揶揄する文章を読むうちに、「パンデミックなめるな」と腹立たしくもなるが、マスク不足やPCR検査、ハイリスク群への警鐘、ワクチン開発など、今回も浮上したトピックに2012年時点で触れているという点で、先見の明を感じる部分が、なきにしもあらずである。(C.H.) (第2閲覧室 498.6||H)

KPUM Library Booklog : <http://booklog.jp/users/kpumlib>

この本のページ : <https://booklog.jp/item/1/4884162129>

.....
図書館メール News 第 451 号 2021.10.29 発行 (隔週金曜日発行)

編集・発行 : 京都府立医科大学附属図書館

library@koto.kpu-m.ac.jp

<http://www.kpu-m.ac.jp/k/library/>

.....
(図書館メール News のバックナンバーはこちらから↓)

<http://www.kpu-m.ac.jp/k/library/webservice/mailnews.html>